

9-11 世紀ウルジェイ司教座聖堂教会文書群の生成論的検討
—司教座文書からイエ文書へ、イエ文書から司教座文書へ—

足立孝

1978年のローマ国際研究集会において、ローヌ川からガリシアまでの封建制の発展様式を比較・総合しようとしたピエール・ボナシは、10世紀中葉から11世紀末葉までにわけても私人間の取引を主体とする膨大なオリジナル文書が例外的に伝来することを最大の根拠の一つとして、カタルーニャを全体の参照軸に据えることがいかに有効であるかを訴えている。だが、ここにはスペイン北部からフランス南部におよぶ広大な地理的枠組みの中で、なぜカタルーニャにかくも多くのオリジナル文書が伝来しているのかという、現在の史料論的研究の隆盛からすれば問われてしかるべき問いが不問に付されている。また、従来のカタルーニャ研究のなかでもミシェル・ジンメルマンを筆頭に文書学・文献学よりの立場からは、豊富なオリジナル文書を縦横に生かしてきわめて活発な書記文化とそれに裏打ちされた文書利用の水準の高さが特筆すべき点として強調されてきたが、そうした仕事を可能にらしめた文書の伝来状況そのものについては、結局のところそこから抽出された活発な書記文化の存在をもってなれば循環論的に説明されてしまい、ここでもやはりなぜオリジナル文書が例外的に数多く伝来するかはかならずしも問われることがない。そもそも私人を主体とするオリジナル文書の多数の伝来といえども、その大半はやはり教会・修道院を介して伝来するのが通例であり、この点ではウルジェイ、ピク、バルセローナ、ジローナといった司教座聖堂教会文書が数量的に他を圧倒している。そこで本報告ではとくに、カタルーニャ随一の伝統を誇るウルジェイ司教座聖堂教会の「文書庫」を例にとり、その成り立ちを文書の類型と内容にそくして生成論的に検討することによって、以上の問いに微力ながら取り組んでみたい。

9世紀から12世紀までの同司教座聖堂教会文書のうち、その大半がオリジナルで占められる単葉形式の羊皮紙は全体で1,527点にのぼる。同司教座にはこれらに加えて2点のカルチュレールが伝来しているが、ここには単葉形式の文書の約3分の1が筆写・集成されているにすぎず、基本的な文書管理のあり方がいかなるものであったかを雄弁にものがたっている。ここでは文書伝来の起点をなす820年代から1100年までを時間的枠組みとし、特定の文書類型を軸に文書の増減を正確に把握すべく、ウルジェイ司教区のなかでもとくに伝統的な影響圏であり、年代の推移に関係なく最もまとまった数の文書が伝来するセーグラ川上流およびバリーラ川流域に関する文書を俎上に載せた。そのうえで、主要な文書類型として贈与（寄進）、売却、交換、さらには紀元千年頃から次第に増加する遺言状（および遺言公示書）の年代別総数の推移と伝来形態をそれぞれ検討したところ、伝来数が極端に少ない交換文書はさしあたり措くとして、カルチュレールへの筆写・集成によって伝来する傾向がきわめて強い贈与（寄進）文書と遺言状および遺言公示書に対して、年代問わず総文書数のほぼ30-40%を占める売却文書がカルチュレールに筆写・集成されずもっぱらオリジナルの形で伝来していることが明らかになっ

た。

このように多数のオリジナル文書の伝来という現象が基本的に売却文書によって支えられていたとすれば、近年の中世土地市場論のなかで唯一カタルーニャ研究だけが、売却文書の数量的分析をつうじて需給原理に基づく近代的な土地市場の存在を認めてきたこともうなずけよう。けれども、実際にはいかに低く見積もっても現実に伝来する売却文書と同数以上の売買が確実に行われ、それを内容とする売却文書が作成されていながら、それらがおよそ保管されてこなかったことが、贈与（寄進）、売却、交換、遺贈の対象となった土地が購入に由来するものであることを明記する文言と、実際に伝来する売却文書の照合作業から裏づけられる。となれば、たとえオリジナル文書とはいえ売却文書そのものの増減はもはや確実な所見とはなりえないし、むしろ私人間の売買という点では区別しようのない売却文書のうちに、残されるものと残されないものとのいかなる選別の基準があったかを検討することこそが、司教座の法的利害に直接関係しない多数の文書がオリジナルの形で伝来することを説明する鍵の一つとなるであろう。

この場合、一般には購入由来の土地の司教座への最終的な寄進・遺贈が、それにかかわる売却文書の移管・譲渡を行わせしめたと理解されるのが通例である。だが、遺言状とそれに先立つ売却文書の行方が問題となったいくつかの係争の所見によれば、家族成員が共同で購入した場合や購入財産が司教座への一定の貢租納付と死後寄進を条件に家族成員によって相続される場合、購入時の売却文書は基本的に家族の手元に留め置かれたようであるし、逆に司教座にとってみれば、自らの権利を確保するうえで係争時に法的な証拠手段となったのはつねに遺言状であって、それに先立つ売却文書ではなかった。このようにそれら売却文書があくまでも残された家族が唯一依拠しうる最後の法的な砦であり、法的には遺言状で十分に事足りていた司教座にそれらが全面的に移管・譲渡されえたとするならば、われわれがなかば無意識的にそうしてしまうように個々の土地財産に対する権利の確保・維持という法的関係ではなく、むしろ土地の権利関係を越えた、司教座と故人およびその家族とのなんらかの社会的関係をみとおす必要がある。

遺言状か遺言公示書の伝来する遺贈主が購入主体となった売却文書の総数は紀元千年以降では全体の半数以上を占めるばかりか、そのうちの大半は遺贈主が司教を筆頭に総じて聖職者たる肩書きを冠している。ここでいう「聖職者」のなかには妻子をもつ者もけっしてめずらしくなく、彼らが純粋な司教座聖堂参事会員または少なくとも聖務を執行する語の真の意味での聖職者であったか、11世紀にはサケルやレウィタが往々にしてそうであったとされているように、参事会員と同等の霊的待遇と引き換えにさまざまな専門分野で司教座の政治的協力者となった俗人であったかは判然としないものの、これら聖職者が、個人の霊的救済と家門の継承・維持という本来相容れない動機を内包する遺言を残すにあたって、一般の俗人にもまして前者を優先し、後者をないがしろにしたというわけではない。事実、彼らは購入を主たる方法として土地を集積し、最終的に遺言状を介してそれらの土地を司教座に遺贈すると同時に、あたかもそれと交換するかのよう家族成員の1人が司教座参事に列せられるようしばしば要請している。それはまさしく自らが地域エリートに成り上がるだけでなく、新たに確保した社会的地位

を次世代へと継承・維持するための考えられるかぎり最も有効な手段の一つとなっていたのである。ここでは、土地の集積を起点に、霊的救済という個人的動機を満たしつつ自らを地域エリートたらしめる司教座との関係を遺贈をつうじて構築・強化してゆくことが、そのまま家門そのものの存続・維持へと結びついている。だからこそ家門に伝来する文書群が総じて司教座に移管・譲渡されえたのである。その意味では、一件雑多な司教座の文書庫は、少なくともその一部、ただし全体からみてけっして小さくない部分がそうした地域エリート家門のイエ文書の複合体となっているといつてよいであろう。

以上をふまえるならば、いかにオリジナル文書が膨大に伝来するカタルーニャ史料といえども、従来なかば羨望をこめて指摘されてきたように、社会全体を仔細にみとおす材料としてはけっして完全なものではありえないし、すでにカルチュレール型伝来地域では乗り越えられた、あるいは乗り越えられざるをえなかった文書数の増減に立脚した数量的研究も全面的にみなおされなくてはならない。結局のところ、われわれは特定の地域エリート家門とその社会的ネットワークのおよぶ範囲の「社会」しかみとおすことができていないといつても過言ではないのである。

参考文献

[史料]

C. Baraut, *Els documents [dels segles IX-XII] conservats a l'Arxiu Capitular de la Seu d'Urgell, Urgellia : anuari d'estudis històrics dels antics comtats de Cerdanya, Urgell i Pallars, d'Andorra i la Vall d'Aran*, II (1979), pp. 7-145; III (1980), pp. 24-146; IV (1981), pp. 7-186; V (1982), pp. 7-158; VI (1983), pp. 7-243; VII (1984-1985), pp. 7-218; VIII (1986-1987), pp. 7-149; IX (1988-1989), pp. 7-312; X (1990-1991), pp. 7-349, 473-625.

Monumenta Germaniae Historica, Leges, Legum Sectio I, Leges nationum Germanicarum, t.1, *Leges Visigothorum*.

Monumenta Germaniae Historica, Legum Sectio V, Formulae, Formulae Visigothicae.

Arxiu de la Corona de Aragó, MS Ripoll, no. 74, fols. 145v-156v (M. Zimmermann, *Un formulaire du X^e siècle conservé à Ripoll, Faventina*, IV/2, 1982, pp. 25-86).

[研究文献]

P. Bonnassie, *Les conventions féodales dans la Catalogne du XI^e siècle, Les structures sociales de l'Aquitaine, du Languedoc et de l'Espagne au premier âge féodal* (Toulouse, 28-31 Mars 1968), Paris, 1969, pp.187-208.

— *La Catalogne du milieu du X^e à la fin du XI^e siècle. Croissance et mutations d'une société*, 2 vols., Toulouse, 1975-1975.

— *Du Rhône à la Galice: genèse et modalités du régime féodal, Structures féodales et féodalisme dans*

- l'Occident méditerranéen (X^e-XIII^e siècles). Bilan et perspectives de recherches*, Paris, 1980, pp. 17-84.
- Une famille de la campagne barcelonaise et ses activités économiques aux alentours de l'an Mil, *Annales du Midi*, 76, 1964, pp. 261-303.
 - J. A. Bowman, *Shifting Landmarks. Property, Proof, and Dispute in Catalonia around the Year 1000*, Ithaca, 2004.
 - C. Baraut, L'origen de la senyoria Episcopal de la Seu d'Urgell, *Acta historica et archaeologica medievalia*, 20-21, 1999-2000, pp. 57-61.
 - V. Fariás Zurita, Compraventa de tierras. Circulación monetaria y sociedad campesina en los siglos X y XI. El ejemplo de Goltred de Reixac, *Anuario de estudios medievales*, 29, 1999, pp. 269-299.
 - P. Freedman, *Tradició i regeneració a la Catalunya medieval. La diocèsi de Vic*, Barcelona, 1985.
 - A. J. Kosto, *Making Agreements in Medieval Catalonia. Power, Order, and the Written Word, 1000-1200*, Cambridge, 2001.
 - The « *Convenientiae* » of the Catalan Counts in the Eleventh Century : a Diplomatic and Historical Analysis, *Acta historica et archaeologica medievalia*, 19, 1998, pp. 191-228.
 - The *Convenientia* in the Early Middle Ages, *Medieval Studies*, 60, 1998, pp. 1-54.
 - A. M. Mundó, Le statut du scribe en Catalogne du IX^e au XI^e siècle, *Le statut du scribe au Moyen Âge. Actes du XII^e colloque scientifique du Comité international de paléographie latine*, Paris, 2000, pp. 21-28.
 - El jutge Bonsom de Barcelona, cal·ligraf i copista del 979 al 1024, *Scribi e colofoni. Le sottoscrizioni di copisti dalle origini all'avvento della stampa*, Spoleto, 1995, 269-228.
 - F. Sabaté, Organització administrativa i territorial del comtat d'Urgell, *El comtat d'Urgell*, 1, 1995, pp. 17-70.
 - *El territory de la Catalunya medieval. Percepció de l'espai i division territorial al llarg de l'Edat Mitjana*, Barcelona, 1997.
 - J. M. Salrach, El mercado de la tierra en la economía campesina medieval. Datos de fuentes catalanas, *Hispania*, LV/3, núm.191, 1995, pp. 921-952.
 - Formació, organització i defensa del domini de Sant Cugat en els segles X-XII, *Acta historica et archaeologica medievalia*, 13, 1992, pp.127-173.
 - N. L. Taylor, *The Will and Society in Medieval Catalonia and Languedoc, 800-1200*, Ph. D. dissertation, Harvard University, 1995.
 - R. Viader, *L'Andorre du IX^e au XIV^e siècle. Montagne, féodalité et communautés*, Toulouse, 2003.
 - M. Zimmermann, *Textus efficax* : Ennonciation, révélation et mémorisation dans la genèse du texte historique médiéval. Les enseignements de la documentation catalane (X^e-XII^e siècles), *Genesis of Historical Text : Text/Context*, Nagoya, 2005, pp. 137-156.
 - Écrire en l'an mil, *Hommes et sociétés dans l'Europe de l'an mil*, Toulouse, 2004, pp.351-378.
 - *Écrire et lire en Catalogne (IX^e-XII^e siècle)*, 2 vols., Madrid, 2003.

- L'usage du droit wisigothique en Catalogne du IX^e au XII^e siècle: approches d'une signification culturelle, *Mélanges de la Casa de Velázquez*, 9, 1973, pp. 232-281.